



あけましておめでとうございます。

代表理事 石田 嵩

皆様におかれましては、心新たに新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

さやま環境市民ネットワークも創立以来、はや6年が経過し、昨年も緑・川・温暖化・ゴミ減量関連の事業をはじめ、数々の活動を展開いたしました。会員をはじめ多くの皆様のご支援ご協力により、大きな成果を上げ、活動の輪が大きく広がりましたことは、感謝にたえません。

今、世界は温暖化対策が急がれておりますが、昨年鳩山新総理は世界に向かい、温室効果ガスを2020年までに25% (1990年比) 削減すると宣言されました。今年はCO₂削減に更に取り組みたいものです。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

▶ さやま環境ウォーク2009 を開催 ◀

平成 21年10月31日(土)「さやま環境ウォーク 2009」(全行程約5.5km)を実施しました。「リサイクルプラザを見学し、“かかし祭”を楽しみ、奥富の田園地帯を歩く」と題して、今年で5回目となりました。例年、地区の自然・史跡を巡り、汗をかき、交友を深め、狭山の環境を考えることを目的としてきましたが、今年はそのに加え、リサイクルプラザ見学でゴミ問題を考え、また奥富地区名物である“かかし祭”に参加することで、地区との連携を深めることを企画しました。

当日は好天に恵まれ、暖かい一日でした。インフルエンザで小学校の学年、学級閉鎖が続出したため、小学生およびその家族に参加辞退が多く、参加者は109名と少なくなったのは残念でした。

中原公園を出発し、弁天堀の「魚の遊園地」で鯉に餌をあげ、入間川沿いを歩き、リサイクルプラザを30分ほど見学しました。その後、刈り取られた田んぼ道を歩き、“かかし祭”会場に到着しました。

奥富地区のご好意により、田んぼの真中の丘陵地帯を昼食・休憩の場所とし、約1時間“かかし祭”を楽しみました。ここで、参加賞のおいしい芋汁を数杯ずつ(?)いただき、楽しいひと時を過ごすことができました。その後、広福寺を経て中原公園

で自由解散となりました。

参加者からは「狭山市にこんな大きな水田地帯があるとは知らなかった」「“かかし祭”を見たのは初めて」「来年は“かかし祭”に出展したいね」との声もあり、事故もなく充実した一日となったと思います。



青空の下、奥富の田園地帯をみんなで歩く

今回の環境ウォークに対し、助成頂いた狭山市観光協会、全面的に協力頂いた奥富地区自治会連合会、狭山市、狭山市教育委員会、および協賛頂いた多くの団体の皆様に、心より感謝申し上げます。

ありがとうございました。

(環境ウォーク実行委員長 児玉 靖)



環境くん

砂川しげひさ

「おい、オレは湯たんぽじゃない」

各分科会の活動報告

緑の分科会

狭山の緑を思う

私の育った練馬区の石神井は、田んぼの中を蛇行して流れる石神井川と、北側には「三空寺池」、南側には小高い丘と林が広がっており、正に『里山』そのものであった。川には「メダカ」、田んぼには「カエル」、池には「タナゴ」や「ヤマメ」がいた。草花も豊富で、あぜ道には「ジシバリ」、「ヘビイチゴ」、林には「たつなみ草」「ホタルブクロ」が群がって咲いていた。もう半世紀以上の前の事である。高度経済成長が始まった昭和30年代後半になると、川岸はコンクリートで固められ、田んぼは埋められ、アツと言う間に高層団地が林立、『里山』は消えていった。

昨年1月の「狭山市景観まちづくり」の環境講座に参加して、一種のカルチャーショックを受けた。この狭山市においても、40年前と比較して



狭山の雑木林

森林が54%も減少しており、田畑も同様に姿が消えている事を学んだ。狭山に越して来て40年、身近に感じてはいたが「ここまで来たか!」という思いだ。東農大の石弘之教授(環境問題研究者)が「手が付けられない程人間が暴走し、地球が限界に達している」と書かれたものを何かで読んだ事がある。この現象は地球規模なのであろう。ただこの講座に参加していたのは40名程であった。もし、この状況を4000名の人に見せたら、かなり市民の意識は変わる。40,000名に説明したら間違いなく狭山市は良くなるだろう。ともかく今は地道にその「輪」を広げる事、子供達を育む良い環境を作る事

だ。良い種は良い苗となり良い花を咲かせる。良い自然環境で育んだ子供達は、きっと素晴らしい社会人になるであろう。良い社会人は良い環境を作ってくれるだろうから、人間と環境は一体と思う。そんな思いを描きながら「トラスト9号地」の作業に臨んでいる。(中島 功)

川分科会

入間川とまちをもっとつなげよう

入間川は狭山市駅から1km程に位置し、左岸側は広瀬、柏原地区などの住宅地、右岸側は七夕通りや国道16号が隣接し、狭山の中心市街地を流れる河川である。現在、左岸側は、点在する河川公園をサイクリングロードが結ぶように整備されている。周辺地域からアクセスが容易なことから、

休日の利用のみならず、普段からジョギングや散歩など、多くの人が入間川の風景や自然に親しんでいる。一方、右岸側は鷗ノ木運動公園、入間川



新富士見橋付近の入間川—— 昭代橋から新富士見橋方面を見る

小中学校、奥富運動公園などの拠点施設はあるものの、河川沿い園路の未整備の区間もあり、河川としての利用度は低い。

入間川は西川材など物資の輸送や、狂言「入間川」の舞台など、狭山の文化風土の重要な要素のひとつである。この貴重な財産である入間川

とまちの関係を強化し、狭山のまちづくりの中核とすることが望まれる。このためには、①広瀬橋から狭山大橋の間の右岸側に園路を連続させる。②各橋梁の橋詰り部に河川への階段などのアクセス施設の新設や充実を図る整備を行い、兩岸の行き来を容易にし、回遊性を高めることが求められる。

入間川の魅力のひとつは、市街地内であるものの、貴重な自然が残っていることにある。霞川合流部には、カワセミの餌場があるなど、市街地内でも

様々な鳥や植物に出会えるのである。この貴重な自然を守りながら、市民の生活の潤いの向上を図るような川づくりとまちづくりが、新たに生まれ変わる狭山市駅前にもふさわしい入間川の姿のように思われる。(皆川健治)

「エコライフDAY さやま2009夏」を終えて

狭山市の「エコライフDAY」の取り組みは、2006年夏に始まり、今年で4年目となりました。2006年冬は実施せず、2007年には夏に参加していない学校・団体だけを対象に冬の「エコライフDAY」を実施しました。2008年はすべての学校・団体で夏冬の2回実施し、現在に至っています。また、2008年からは市から事業としての委託を受けています。

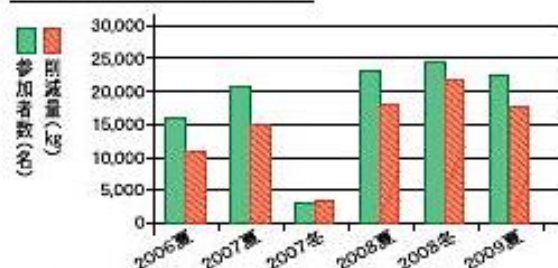
その間の参加者数、CO₂削減量の推移は図に示す通りです。図で分かるように2008年までは、参加者数、削減量ともに順調に伸びてきました。しかし、2009年夏はやや頭打ちとなっています。地球温暖化の問題はより深刻化していますが、この活動は4年間でマンネリ化したのかも知れません。推進者として、今後この活動をどのように推進すべきかを考える時期にあると思います。

昨年、鳩山新政権が誕生しました。そして、世界に向け温室効果ガス25%削減(1990年比)を宣言しました。その方策は今のところ明確ではない

ものの、私たち市民としてもどのように協力するかを考えねばならないと思います。温暖化対策分科会としては、普及啓発活動を継続しながら、実質的に削減を進める方向に舵を切りたいと思っています。

今年3月13日に、川越市民会館で「第9回環境まちづくりフォーラム埼玉」が開催されます。その中の温暖化対策分科会では、市民、企業、行政の立場からの具体的な削減事例が発表される予定です。ぜひ足をお運びください。(児玉 靖)

参加者数・削減量の推移



ごみ減量分科会

狭山市のごみの減らし方 その4

前回、表3で水分を含めた燃やすごみの7成分についてお知らせしました。

燃やすごみの中に含まれる水の出どころについては、前回述べたとおり、紙・布は10%、木竹・わら類(剪定枝・草・落ち葉)は

60%、プラ・ゴム類は0%、残りは厨芥類(生ごみ)からとして計算するのが、最も妥当です。

それで、各成分に水を割り振ったのが表4になります。表4より、厨芥類が最も多く、次に紙・布類、それから剪定枝・草・落ち葉の順になります。ですから、生ごみをリサイクルして肥料とし、有効利用することが最も重要です。

燃やすごみの7成分(再掲)

表3

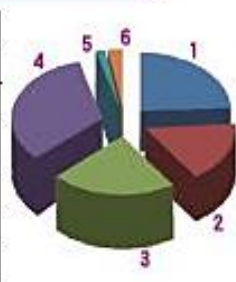
名称	割合(w%)
1 紙・布類	21.7
2 プラ・ゴム類	16.5
3 木・竹・わら類	9
4 厨芥類	4.4
5 不燃物	1.6
6 その他	2.5
7 水	44.2



水分を割り振った場合

表4

名称	割合(w%)
1 紙・布類	24
2 プラ・ゴム類	16.6
3 木・竹・わら類	22.5
4 厨芥類	32.9
5 不燃物	1.6
6 その他	2.5



紙・布類も多いのですが、紙・布類やプラスチックを先にリサイクルして除去すると、生ごみが大部分になり、生ごみは水が多いので燃えなくなり、助燃剤として石油を燃やすという馬鹿なことになりますから、先に生ごみを減らす必要があります。次回に続く。(土淵 昭)



昨年10月24日(土) やまおやじの森にて「やまぼたる」というイベントを開催した。この目的は、入間川七夕まつりで使用された竹飾りを加工して灯籠を作り、森をライトアップするという、竹のリサイクルと森の活用である。

竹灯籠の設置本数は約三千本。午後四時から竹灯籠に灯が点火された。三千本の竹灯籠が創出する幻想的な空間は、あたかもホテルが森にたたずんでいる様子を思い起こさせた。私は次のように思います。狭山には平地林を含め、すばらしい地域資源がたくさんあります。おそらく、ほとんどの市民はそれに気づいていません。だから足元にある地域資源をもう一度見直してみようではありませんか。そうすることで何かが生まれてくるはずですよ。(牛窪伸幸)



12月7日、サトイモ畑広がるのどかな中新田に、狭山農業青年会議所会長の落合茂雄さんを訪ねた。

同会議所には、狭山市の専業農家26～37歳の37名が加入している。主な農作物は、サトイモ、ホウレンソウ、ミズナ、茶、花など。

農業11代目の落合さんによれば、昔はサツマイモやゴボウを作っていたが、40年程前からサトイモを作るようになったそうだ。今は、一反(約1000㎡)当り2000株を植え付け、

3～5tのサトイモを収穫している。サトイモは、種イモが親頭に成長し、親頭から子イモ孫イモが成長する。商品として売り出されるのは、子イモや孫イモ。畑に捨てられた親頭を見て、山形県の方が、「山形では、こども食べるよ」と話してくれたことをヒントに、同会議所は、サトイモ増産プロジェクトをスタート。平成21年度から親頭そのものの形を整え、近隣スーパーに出荷するようになった。サトイモの出荷規格外のものにも、まだまだ美味しく食べられるものがたくさんあるそうなので、こうした試みは嬉しい。農業の発展のためにも我々消費



会長 落合茂雄氏

者は、選び方を工夫すべきだと改めて思った。

堀兼公民館活動の企画を受け、ヒマワリ活動も昨年始めた。休耕田に、ヒマワリの花を咲かせる活動は、温暖化対策にもなる。鋤き込むことで、せん虫や害虫の駆除ができ、一石二鳥だ。新たに採れた種は、蒔くだけでなく、ヒマワリ油を作ろうという話も出ている。「今後は、耕作放棄地にも花を咲かせ、ゴミが捨てられるのを防いで、周りの皆の心を明るくしたい」と意気込んでおられた。帰りがけに案内された屋敷林は、とてもきれいに手入れされていた。たくさん

集めた落ち葉は、毎年6月に天地返しをし、発酵させる事で1/4程になるらしい。それをサト

イモ畑に撒き、不足する分を化成肥料や、鶏糞を加えることで、土地がやせるのを防いでいる。

今年あたりから、新たに狭山のアスパラガスが出荷されるそうで、楽しみだ。地産地消は、農業を支え、持続可能な循環型社会の基本だと思う。

(廣川アユミ)



集めた落ち葉で堆肥作り

★参考：ブログ「37人の農家」を紹介します。
<http://37farmers.nousei-sayama.com/>
「フライド里ポテト」簡単レシピもあり。

第9回 環境まちづくりフォーラム・埼玉

はじめよう！つながろう！環境まちづくり 垣根を越えた新しい市民環境活動

- 日時：平成22年3月13日(土) 10:00～16:00 (入場無料)
- 会場：川越市市民会館 やまぶき会館 川越市郭町1丁目18番7
- 午前：基調講演「環境を生かしたまちづくり」 東洋大准教授 小瀬博之氏
- 午後：6分科会環境セミナー(さや環 関連分科会からも報告します)
- お問い合わせ：実行委員会事務局(狭山市) 土淵 昭 Tel. 04-2954-3448

雑木林の手入れ(森林施業) ボランティア募集

里山再生のため、森の手入れのボランティア活動に参加してみませんか

- 日時：平成22年1月23日(土)～24日(日) 9:00～15:00 (参加費無料、雨天中止)
- 場所：狭山市南入曾の若葉台団地南側森林(水野の森)
- 集合：9:00、武蔵野園特養ホーム西側の若葉台多目的広場の南
- 参加者には、けんちん汁や野菜がプレゼントされます
- 参加申し込み先：JAいるま野狭山統括支店 Tel. 04-2953-6211

市内在住・在学・在勤の個人、市内で活動されている

民間団体や事業者であれば入会する事が出来ます。

問合せ先：NPO法人さやま環境市民ネットワーク事務局

事務局長 伊藤勝彦 Tel./Fax.04-2956-6357 携帯 090-4535-2394

●Eメール=o_surd@planner.so-net.ne.jp

●ホームページ=http://sayama-kankyo.org

会員数=平成21年9月11日現在(総数186会員)=個人 155人 / 団体 21団体 / 事業者 10事業者